

キク (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	うどんこ病	褐斑病	黒さび病	黒斑病	白さび病	灰色さび病	べと病	炭疽病	黒星病	斑点病	立枯病(リゾクトニア菌)
カリグリーン溶	NC		*b	-	◎				◎						
クムラス顆水	M2		-	-					◎						
コロナFL	M2		-	-					◎						
インプレッションクリア	BM2		*d	-					◎						
アグロケア水	BM2		*d	-	◎				◎						
トップジンM水㊟	1		-	5		◎									
ベンレート水㊟	1		-	6		◎		◎	◎						
ピリカット乳	39		*b	6	◎				◎						
アフエットFL	7		*b	3	◎		◎		◎	◎					
カナメFL	7	劇	*b	3					◎						
バシタック水75	7		*b	5					◎						
バレード20FL	7		*b	3	◎	◎			◎						
アミスター20FL	11		*b	5					◎						
ストロビーFL	11		*b	3		◎		◎	◎						
ファンタジスタ顆水	11		*b	5					◎	◎					
メジャーFL	11		*b	3		◎		◎	◎						
アンビルFL	3		*b	7	◎				◎						
サブロー乳	3		*b	5					◎						
セーフガード乳	3		*b	5					◎						
チルト乳25	3		*b	3					◎						
トリフミン水	3		*b	5	◎				◎						
トリフミン乳	3		-	5					◎						
マネージ乳	3		*b	6			◎		◎						
ラリー乳	3		*b	5					◎						
ポリオキシシンA L 乳	19		*b	8	◎										
ポリオキシシンA L 溶	19		*b	8					◎						
サンヨール	M1		*c	8	◎	◎		◎	◎	◎					
エムダイファー水	M3		*b	8			サ		サ	◎	◎	◎			
ジマンダイセン水	M3		-	8			サ		サ	◎	◎	◎	◎		
ペンコゼブFL	M3		*d	8					◎						
ダコニール1000FL	M5		*d	6	◎	◎		◎	◎					◎	
ユニフォーム粒	4・11		*a	1					◎						
			*e	3											◎

㊟：チオファネートメチル含有剤 ◎：ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP.856 参照）。

*a:定植前 *b:発病初期 *c:発生初期 *d:発病前～発病初期 *e:定植時又は生育期
サ:さび病で登録(黒さび病と白さび病を含む)

キク (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒 性	使用時期 (回数)	アザミウマ類	アブラムシ類	カメムシ類	コナジラミ類	ハモグリバエ類	ヨトウムシ類	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ	オオタバコガ	ハダニ類	ネグサレセンチュウ	その他害虫
スピノエース顆水	5		*d 2	◎				◎				◎			
コロマイト水	6		*d 2										◎		
コロマイト乳	6		- 2					◎					◎		
エスマルクDF	11A		*d -									◎			
ゼンターリ顆水	11A		*d -						◎						
デルフィン顆水	11A		*d -									◎			
サフオイル乳	-		*a -										◎		
			*d -										◎		
マイコタール	-		*d -	シ											
オリオン水40	1A	劇	*d 5	◎					◎		◎				
オンコル粒5	1A		*c 1 *e 3	ナ ◎											
ガゼット粒	1A	劇	*e 3 *c	カ		◎								◎	
オルトラン水	1B		*d 5					マ				◎			
オルトラン粒	1B		*d 5	◎	◎			◎	◎	◎	◎				ネ
ガードホープ液	1B	劇	*e 2										ミ	セ	
カルホス乳	1B	劇	*d 4				お	マ							
ジェイエース溶	1B		*d 5	◎	◎			マ				◎			
ジェイエース粒	1B		*d 5	◎	◎			マ							
スミチオン乳	1B		- 6		◎	◎			◎	◎	◎				フ
ネマキック粒	1B		*a 1											グ	ダ
ネマトリンエース粒	1B		*a 1										ミ	◎	
マラソン乳	1B		*d 6						◎						
アグロスリン乳	3A	劇	*d 6		◎										
アーデント水	3A		*d 5	カ	◎								◎		
サイハロン乳	3A	劇	- 3		◎							◎			
テルスターFL	3A	劇	- 3	カ									◎		
トレボン乳	3A		*d 6		◎										
トレボンEW	3A		- 6		◎										
マブリック水20	3A	劇	*d 2		◎										
アクタラ顆溶*	4A		*d 6	カ		ウ		◎							
アドマイヤー1粒	4A		*e 5	◎	◎										
アドマイヤーFL	4A	劇	*d 5	施	施										
アルバリン顆溶	4A		*d 5		◎	◎	◎	◎							
スタークル顆溶	4A		*c 1 *e 5		◎			マ							
アルバリン粒	4A		*c 1		◎		◎	マ							
スタークル粒	4A		*e 5		◎										
ダントツ溶*	4A		*d 4	◎	◎	◎		◎							
ダントツ粒	4A		*d 4	◎	◎			マ							
ベストガード溶	4A		*d 4	カ	◎		◎								
ベストガード粒	4A		*d 4	カ	◎			マ							
モスピラン粒	4A		*c 1 *i 1	カ ◎				◎							

キ

ク

キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期（回数）	アザミウマ類	アブラムシ類	カメシラミ類	コナジラミ類	ハモグリバエ類	ヨトウムシ類	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ	オオタバコガ	ハダニ	ネグサレセンチュウ	その他害虫
トランスフォームFL	4C		*d 3	◎	◎										
アニキ乳	6		*d 6					マ	◎		◎				
アフーム乳	6		*d 5	◎											
コテツFL	13	劇	*d 2	み					◎	◎	◎	◎			ア
アタブロン乳	15		*d 5	ナ						◎					
カウンター乳	15		*d 5	◎								◎			
カスケード乳	15		*d 3	カ				マ							
マッチ乳	15		*d 5	◎				マ	◎						
マトリックFL	18		*d 4						◎						
ロムダンFL	18		*d 5						◎	◎	◎				
マイトコーネFL	20D		*f 1											ミ	
サンマイトFL	21A	劇	- 2		◎								◎		
ハチハチ乳	21A	劇	*d 4	◎	◎			◎							
ピラニカEW	21A	劇	*d 1		◎								◎		
トルネードエースDF	22A		*d 4						◎	◎	◎				
ファイントリムDF	22A		*d 4						◎	◎	◎				
アクセルFL	22B		*d 6							◎	◎				
スターマイトFL	25A		*d 1										◎		
フェニックス顆水	28		*d 4						◎		◎				
ヨーバルFL	28		*d 3	◎					◎		◎				
ウララ50DF	29		*d 6		◎										
グレーシア乳	30		*d 2	◎					◎		◎	◎			
プロフレアSC	30		*d 3						◎		◎				
ファインセーブFL	34	劇	*d 2	◎											
サンヨール	-		*d 8		◎								◎		
フーモン	-		1 -										◎		
ビルク水	3A・10B	劇	- 1										◎		
アクセルキングFL	21A・22B	劇	*d 4	◎	◎			◎	◎		◎				

*：使用方法は、散布だけでなく株元への灌注や灌水チューブを使用した灌注処理もある。但し適用害虫により登録が異なる場合があるため注意すること。

*a:定植前 *c:定植時 *d:発生初期 *e:生育期 *f:開花前まで
 *g:植付時 *h:植付前 *i:生育初期

ア：アワダチソウグンバイ ウ：ウスモンミドリカスミカメ（灌水チューブを用いた灌注処理） カ：ミカンキイロアザミウマ グ：ネグサレセンチュウ及びネコブセンチュウ コ：ネコブセンチュウ
 シ：施設栽培でミカンキイロアザミウマ セ：ネグサレセンチュウ及びハガラセンチュウ ダ：ネダニ類 ナ：ミナミキイロアザミウマ ネ：ネキリムシ類 フ：フラーバラゾウムシ マ：マメハモグリバエ ミ：ナミハダニ
 お：オンシツコナジラミ若齢幼虫
 み：ミカンキイロアザミウマ及びミナミキイロアザミウマ
 施：施設栽培

キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒斑病・ 褐斑病	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビーフロアブル 2000～3000倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 サンヨール (乳) 500倍 ベンレート水和剤 2000～3000倍	最終摘心の20～30日後から薬剤散布を開始する。摘心直後に降雨が多い場合には早めに散布する。
黒さび病	生育期 (春秋)	1. 耐病性品種を栽培する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤# 400～600倍 マネーヅ乳剤● 500～1000倍	5～6月、秋の冷涼多湿時に発生しやすい。潜伏期間は10～15日である。 # さび病での登録。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
白さび病	生育期 (梅雨期・晩秋)	1. 耐病性品種を栽培する。 2. 発病前から次の薬剤のいずれかを散布する。 サブロー乳剤●△ 1000～1500倍 サンヨール (乳) 500倍 ジマンダイセン水和剤# 400～600倍 ストロビーフロアブル● 2000～3000倍 トリフミン水和剤● 1000倍 ポリオキシシンAL水溶剤 2500倍 マネーヅ乳剤● 500～1000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 △サブローは花芽分化期前後の使用をさける。また、品種や作型によっては新生葉に奇形等を生じることがある。 # さび病での登録。
うどんこ病	生育期 (秋～春)	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ピリカット乳剤 2000倍 ポリオキシシンAL乳剤 500～1000倍 モレスタン水和剤*△ 2000～3000倍	初期防除を徹底する。 *花き類・観葉植物で登録 △モレスタンは高温時や品種によって薬害がでることがある。
白絹病	挿芽前・定植前 生育期	・土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 ・発病初期に、次の薬剤を株元に灌注する。 リゾレックス水和剤* 500～1000倍 3L/m ²	*花き類・観葉植物で登録
半身萎凋病	挿芽前・定植前 生育期	1. 挿穂は健全株から採穂する。 2. 土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 ・罹病株はただちに抜きとり、処分する。	
ウイルス病		1. モザイク症状などの異常のみられる親株は更新する。 2. アブラムシ類の防除を徹底する。	

キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
えそ病	生育期	1. 罹病株は除去する。 2. アザミウマ類を防除する。	T SWVによる。苗感染に注意する。 問題になっている病害虫の生態と防除の項参照。
アブラムシ類	定植時・生育期	1. 次の薬剤を植穴に施用する。 ガゼット粒剤 2 g/株 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 オリオン水和剤40 1000倍 サイハロン乳剤 4000倍 サンマイトフロアブル 1000倍 ベストガード水溶剤 1000～2000倍 3. 施設栽培ではくん煙剤を使用する（くん煙剤の項参照）。	キクに寄生するアブラムシには、キクヒメヒゲナガアブラムシ、キククギケアブラムシ、モモアカアブラムシ、ワタアブラムシなどがある。 アブラムシはウイルス病を媒介するので早期に防除する。
ミナミキイロアザミウマ	定植時または生育期	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 アドマイヤー1粒剤# 3kg/10a オンコル粒剤5 定植時 6～9kg/10a 生育期 9kg/10a コテツフロアブル 2000倍	#アザミウマ類での登録
ミカンキイロアザミウマ	生育期	・ 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤# 1000～2000倍 カウンター乳剤# 2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍 ベストガード水溶剤 1000倍 ファインセーブフロアブル# 2000倍	#アザミウマ類での登録
マメハモグリバエ	生育期	・ 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスケード乳剤 2000倍 カルホス乳剤 1000倍 ベストガード粒剤 2 g/株	
オオタバコガ	生育期	1. 施設の側面および妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 2. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF 1000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍 ブロフレアSC 2000～4000倍 ロムダンフロアブル 1000倍	

キ

ク

キク（花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハダニ類	生育期	1. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 コテツフロアブル 2000倍 サンマイトフロアブル 1000倍 ダニトロンフロアブル* 1000～2000倍 テルスターフロアブル 4000倍 2. 施設栽培ではくん煙剤を使用する（くん煙剤の項参照）。	高温、乾燥時に多発する。 ハダニ類は薬剤抵抗性がつきやすいので、同一薬剤の連用をさけ、数種類の薬剤を選び輪換散布を行う（ハダニ類防除薬剤の項参照）。葉裏にも十分散布する。 *花き類・観葉植物での登録
キクモンサビダニ（紋々病）	定植前	1. 発病株から挿穂をとらない。 2. 摘芯した芽を処分する。	
ネグサレセンチュウ	定植前	1. 土壌消毒を行う（土壌消毒の項参照）。 2. 次の薬剤のいずれかを全面施用し、土壌混和する。 アドバンテージ粒剤 10～20kg/10 a ネマトリンエース粒剤 20～25kg/10 a	
ハガレセンチュウ	定植前	1. 連作をさける。連作する場合は被害葉を取り除く。 2. 発生した圃場から採芽しない。	
その他の病害虫		根頭がんしゅ病、半身萎凋病、葉腐れ症（リゾクトニア菌）、キクキンウワバ、キクスイカミキリ、キクヒメタマバエ	